


特別展評価シート(1/3)

施設名	大阪城天守閣	展覧会名	秀吉への挑戦
-----	--------	------	--------

概要・実績	目的	<p>豊臣秀吉は、本能寺の変の後、山崎合戦や賤ヶ岳合戦など史上に名高いいくさを勝ち進み、中国の毛利氏や四国の長宗我部氏、九州の島津氏に代表される各地の武将たちをつぎつぎに従えて、天下統一を果たしました。本展覧会では、秀吉がその過程で戦った武将たちの生きざまをゆかりの資料で紹介しながら、秀吉という人物、さらには秀吉の築き上げた豊臣政権の性格についてさぐってゆきます。</p>				
	会期	平成22年10月9日 ～ 11月14日		会期 37日間		
	主催	大阪城天守閣				
	共催・後援	なし				
	協賛・助成	なし				
	観覧料	大人600円、中学生以下および市内在住65歳以上無料	無料対象者	中学生以下および市内在住65歳以上		
	観覧者総数	161,199人	有料入場	117,822人	(73.1%)	
	作品件数	119点	うち、借用	49点		
	関連事業	関連事業として重要文化財千貫櫓・多聞櫓・金蔵特別公開、ミュージアムウィークス大阪2010。連携事業として大阪平成中村座、大阪ウオーク2010				
	企画・実施	学芸課 主担者：瀬島宏計 副担者：跡部信				
成果	全国各地の戦国武将を多数とりあげて、重要文化財7件（うち2件は国宝）を含む多種多様な文化財を48もの機関および個人から借用し、来館者に楽しんでもらうことができた。特別展の展示は、館内展示のなかで日本人・外国人ともに最も高い評価を得た。					
補足事項						

特別展評価シート(2/3)

施設名		大阪城天守閣		展覧会名		秀吉への挑戦											
定量評価	目標	有料入場者数	86,000人	予算	10,000,000	外部資金	—	総事業費	10,000,000	観覧料収入	51,613,800	その他収入	650,000	収入合計	52,263,800	図録販売数	500
	実績		117,822人		9,376,082		—		9,376,082		65,239,290		452,400		65,691,690		348
	達成率		137.0%		93.8%		—		93.8%		126.4%		69.6%		125.7%		69.6%
定性評価	実績・伝統の継承と新たな魅力創出(外部評価)	評価点	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪を代表する観光スポットで多くの入館者を集める施設という面と豊臣秀吉、豊臣政権、大阪城についての資料収集、調査研究、展示を行う博物館としての面を、両立させながら運営されていることを評価したい。 ・大阪城天守閣では、展示の大きな柱である豊臣秀吉をテーマに調査研究を行い、その成果に基づき多数の展覧会を開催してきた。これまでの研究成果を基礎に、秀吉に敵対した人物に注目するという斬新な視点で今までにない展覧会を開催したことを評価したい。展覧会図録も、コンパクトで、ヴィジュアルなものになった。 														
		改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展の会場が余り広くないという特徴を利点に変えて、展示資料との距離が近く、鑑賞しやすい工夫がされていた。「地図」や「年表」などが展示（展示スペースがない場合は資料が用意）されていると、展示資料の位置関係や文脈が一層理解できたのではないかとと思われる。更に工夫してほしい。 ・館のミッション・守備範囲が、他館に比べはっきりしている。このことは、事業に集中・特化でき、効率的に事業ができる面があるが、反面、事業を広げることに制約がある。今後引き続き成果をあげていくためには、持続的な調査研究とマンネリに陥ることがないように企画力を向上させることが不可欠である。館のクリエイティブな面を維持発展させることが極めて難しい時代になりつつあるので、今後も努力し、成果をあげてほしい。 														
定性評価	さまざまな来館者への対応(外部評価)	評価点	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪のシンボルとして地元大阪府下からの来館者を多数受け入れるとともに、大阪を代表する観光スポットとして、国内外の多数の人を受け入れていることは評価できる。高いリピーター率が維持できているのは、博物館の変わらぬ面と時代に合わせて変化している面が入館者に魅力となっているからだと思われる。 ・外国からの来館者が多いことに対応して、英文での展示解説、ホームページと音声ガイドの多言語（4ヶ国語）化を実施するなど“大阪の顔”として適切な対応をしている。 														
		改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、経済発展の著しい新興国、アジア諸国等からの来館者が増大することが予想される。日本の社会、歴史、文化についての基礎知識が少ない方々に、大阪城天守閣を通じて日本理解を深めてもらうための取組を更に強化してほしい。 														
定性評価	連携による総合力の発揮(外部評価)	評価点	<ul style="list-style-type: none"> ・他館と個人から借用した資料を有効に活用し、国宝等の指定品を含む多彩な資料により展覧会を開催できたことを評価したい。 ・平成22年度の連携事業（大阪市が主催・後援する大阪ウオーク2010、大阪平成中村座との広報協力、共通入場割引の実施）により集客効果を高めることができたことは評価できる。 														
		改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史ブームということで、戦国武将やお城に関心をもつ若い人が増えている。全国の関係施設とも更に連携を強化し、歴史に関心をもった人が更に深い知識を求めて、博物館を訪問するように取り組むことを期待する。 ・同じ歴史系で同じエリアにある大阪歴史博物館との間で、両館の特徴を活かしながら連携（展示関連のイベントを実施する場合には、歴博を会場にすることも含めて）を深めていくことを期待する。 														
定性評価	ニーズに即し効率的な事業展開(外部評価)	評価点	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の博物館の中でも有数の集客力をもつ施設で、本企画展についても入館者数、収入目標を達成していることを評価したい。観光スポットとして広く認知されているとはいえ、お正月も開館したり、閉館時間も季節に合わせて柔軟に延長したり、戦国時代の衣装を着るイベントを実施するなどの行われていることも要因のひとつと考え ・入館者が多い博物館では、きめの細かい点にまで配慮が行き届かないことが多いが、入館者数のニーズに敏感な運営を心がけている。 														
		改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・これから本格化する人口減少期においては、入館者数と収入の目標を高い水準を維持していくことには多くのハードルを乗り越えていく必要がある。5人の学芸員と管理部門のスタッフのチームワークにより、ハードルを乗り越えていくことを期待したい。 														

特別展評価シート (3/3)

総評 (外部評価)	評 価 点	・館のコレクションを活用した展示、他館から借用した資料も活用して、マンネリに陥ることなく、展示を実施し、地元だけではなく、広く国内外から多数の観客を受入れていること、また多くのリピーターを確保していることは大いに評価できる。
		・大阪の顔、大阪を代表する観光スポットとして多数で多様な観客を受け入れている施設であることと博物館として質の高い情報を発信することをバランスよく展開していくことを、今後も期待したい。